

レジメン名 Ph(-)B-ALL2130-M	診療科 血液内科
---------------------------	-------------

適応疾患 Ph(-)B-ALL (25歳以上)

1クール	28日
総クール	寛解導入療法開始日より満2年の日まで
休薬期間	無し

薬剤名	投与量 (mg/m ²)	投与日 (d1~d5、d1、d8等で記入)
ビンクリスチン	1.3mg/m ² (最大2mg)	d1

内服併用薬	投与量 (mg/m ²)	用法	投与日 (d1~d5、d1、d8等)
プレドニゾロン	60mg/m ²	分1~2	d1~d5
カイトリル	2mg/day	ミトレセート内服30分前	d1、d8、d15、d22
メソトレキサート	20mg/m ²	分1眠前又は朝食後	d1、d8、d15、d22
ロイケリン散	60mg/m ²	分1眠前	d1~d28

処方 (輸液・プレメジ・ポストメジを含む)

番号	薬剤名・用量 (mg/m ²)	投与方法	投与速度	投与日 (d1~5等)
①	オンコビン1.3mg/m ² (最大2mg) + 生食50mL	DIV	10分	d1
②	生食50mL (フラッシュ用)	DIV	10分	d1
③				

備考 (減量・中止の基準を記載してください)

①強化療法終了後に下記の基準を満たし全身状態が回復したら本コースを開始する

□白血球数 $\geq 3000/\text{mm}^3$ 血小板数 $\geq 100000/\text{mm}^3$

②ロイケリン散は分1眠前に内服する

③ミトレセートは週1回、就寝前又は朝食後に内服する。

④ミトレセート、ロイケリン散は白血球数 $2500\sim 3500/\text{mm}^3$ のレベルを保つように調節する。

下記の数値のいずれかが出現した場合ミトレセート、ロイケリン散の投与を中止する。

白血球数 $\geq 2000/\text{mm}^3$ 好中球数 $\geq 750/\text{mm}^3$ 血小板数 $\geq 50000/\text{mm}^3$ AST値正常値の3倍以上

ビリルビン正常値上限の3倍以上

異常が消失すれば前回投与の50%量から再開し、可能であれば規定の量まで増量する。

⑤ビンクリスチンはウイルスが見られる場合は中止する。

⑥ビンクリスチンはGrade3以上の末梢神経障害がみられる場合は減量、または中止する。